

■ 学校の共通目標

学力向上のための重点プラン【小学校】

新宿区立落合第五小学校

授業作り	重点	・ 基本的な学習の流れや一授業のめあてを明確にし、児童に見通しをもたせることや、授業のまとめや振り返りを確実に行うことで基礎学力の定着を図る。	・ 一人一人が考えをもてるような学習を展開し、感染対策をしつつ、考えを伝え合う工夫をし、思考力と表現力を高める。	中間評価	・ 基本的な流れ、めあての明確化、見通しをもたせる工夫、ICTの活用により、基礎的な学力、学びに向かう姿勢が身に付き始めている。	最終評価	・ 基本的な学習の流れや一授業のめあてを明確にし、児童に見通しをもたせることや、授業のまとめや振り返りを確実に行うことができた。
		・ ICT機器や具体物を活用し、視覚的に分かりやすい提示・教示を行うことで学力の向上を図る。	・ 「分かる」喜びを実感し、自ら学ぼうとする意欲が向上するよう、集団での指導（一斉指導やグループ学習、タブレット端末を使用した集約等）と個に応じた指導（個別指導）の工夫と充実を図る。		・ GIGA 端末や具体物の活用により学力の定着が見られ、個別指導の工夫と充実を今後も図っていく。		・ ICT機器や具体物を活用し、タブレット端末を使用した集約等）と個に応じた指導（個別指導）の工夫と充実を図ることができた。
環境作り							

■ 学年の取組内容

学年	教科	学習状況の分析（10月）	課題（10月）	改善のための取組（10月）	最終評価（2月）	
1	国語	<p>学「話すこと・聞くこと」について、伝えたい事柄や相手に応じて、声の大きさや速さなどを工夫することが不十分な児童がいる。</p> <p>学「書くこと」について、経験したことから書くことを見付けて、書けるようになってきた。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>自分が話す内容を確かめ、何を伝えたいのかを意識した上で、声の大きさや速さを工夫できるよう、指導していく必要がある。また、実際に話す機会を学校生活の様々な場面で設定していくようにする。</li> <li>書くことを題材し、伝えたいことが明確になるように指導していく必要がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>国語の単元での学習はもちろん、帰りの会で日直が発表している「今日の感想」のスピーチで、一番伝えたいことを特に大きな声で話すよう指導していく。</li> <li>日記の指導の中で、一番伝えたいことを題名にして、そのことについて詳しく分かる日記が書けるよう指導していく。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>授業の中で音読の時間をしっかりと確保することで、声の大きさや速さを意識できるようになった。一人読みの時間を作ることで、個別に指導をすることができた。国語の授業だけでなく、授業の挨拶をするときにも声の大きさや速さを指導することで、日常生活全体で意識させることができた。10月からは「今日の感想」を詳しく話そうと声掛けをし、理由も付けて自分の気持ちを話すことができるようになった。</li> <li>2月の分散登校期間中の課題として、毎日日記の課題を出した。言葉と書き方のヒントを日記用紙の下に載せることで、書くことが苦手な児童も書けるようになった。国語の読む単元で、話の内容のまとまりを意識した授業をすることで、段落を分けて書ける児童も出てきた。学年の9割は100字程度の日記を書くことができるようになった。一番伝えたいことを詳しく書くことについては、今後も指導していく必要がある。</li> </ul>	
	算数	<p>学文章問題で、解く際に必要な情報を見付けることが不十分な児童がいる。</p> <p>学ゲームや教え合いを通して、ペア活動ができるようになった。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>文章をよく読まずに出てくる数字だけで、知っている計算方法で答えを出してしまう児童がいる。問題を解くうえで大切な言葉に線を引きながら、きちんと読むよう指導していく必要がある。</li> <li>解き方の説明などの場面でも、ペア活動を取り入れていく必要がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>掲示物を基に、「あわせて」「のこりは」などの立式の根拠となる言葉や出てくる数字、単位に線を引いて問題を解くように指導していく。</li> <li>児童の理解度を教師がよく見極め、必要感のあるペア活動を取り入れていく。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>授業で文章問題を解く際には、必ず立式の根拠を問い返し、言葉に着目させた。また、「あわせて」「のこりは」などの言葉を常に掲示し、問題文に線を引いて解かせるようにすることで、立式の間違いが減った。計算カードを用いた家庭学習を毎日出したり、授業の初めに百マス計算をしたりすることで、基礎的な計算力が付いてきた。</li> <li>10月以降、自分の考えの書き方を指導し、ノートに書く時間を取るようにした。その結果、ブロックや図、言葉で説明できるようになった。問題を作って出し合う時には、ペア活動を取り入れることで、友達と学ぶことの楽しさを感じていた。自力解決の後はずっと全体検討の流れが多かったため、今後は自力解決後にペア活動も取り入れていく。</li> </ul>	
学年	教科	学習状況の分析（4月）	課題（4月）	改善のための取組（4月）	中間評価・追加する取組（10月）	最終評価（2月）
2	国語	<p>学「読むこと」について、内容の大体を読み取ることや、目的に応じて必要な情報を見付けることが不十分な児童がいる。</p> <p>学「書くこと」では、自分の思いや考えを表現するための語彙の獲得が不十分であったり、文章を読み返したりする習慣付けができていない状況である。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>叙述に基づいて、内容の大体を捉え、登場人物の行動に着目したり、文章の中の重要な語や文を見付けたりする力を身に付ける必要がある。</li> <li>豊かな語彙を獲得し、活用する習慣を付ける必要がある。また、間違いを正したり、語と語や文と文との続き方を確かめたりすることが必要である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>初発の感想から学習計画を立てるなど、内容の大体を全体で共有することで理解を図る。また、教科書の文章に印を付けるなど、視覚的に大事な言葉や文章に気を付けさせるように指導する。</li> <li>漢字指導の際に、文章作りをしたり、反対語や類似語などを紹介したりするなど、言葉に敏感になれるように指導する。さらに、書いた文章を見直すポイントを示し、具体的に読み返す習慣付けを行いたい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>学習の見通しをもちながら、計画を立てることができるようになってきた。その中で、内容を捉えるために必要な語彙力と言葉の理解力の差を考え指導する必要がある。そのために、説明的文章と文学的文章を初見で読む際には、全体で文章の言葉の意味を確認する。また、毎週詩集を活用して言葉の意味を考えたり、覚えたりするように工夫する。</li> <li>語彙表の活用により、新しい言葉に敏感になり、色々な表現方法を考える習慣が付いてきた。見直しの時間を確保しているが、見直しのポイントを絞り、読み返す習慣を付けるようにする。そのために、書く単元を通して、見直しのポイントを教室に掲示するなど、視覚的な工夫をする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>学習計画を立てる際に、内容の大体をおさえることに加えて、言葉の意味が不明な所を確認したり、初出の言葉を日常で用いている語彙表に書き込む活動を継続したりすることで、力を付けてきた。説明的文章において、必要な語句や大事な言葉を見付ける力をより伸ばすために、音読を継続して行う必要がある。</li> <li>書いた文章を互いに見合い、良い所を見付けたり、アドバイスをしたりする中で、読み返す習慣がついてきた。また、さまざまな表現方法を身に付けることができ、言葉や既習の漢字を使用することに敏感に反応できる姿が見られた。個々の課題として、語と語のつながりや、文と文のつながり方のおさえが不十分な児童もいる。</li> </ul>

	国語	<p>学「話すこと・聞くこと」については、相手が伝えたいことや、自分が聞きたいことに集中して聞く姿勢が不十分である。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・相手を意識して発言を受けて話をつないだり、大事なことを落とさないように集中して聞いたりすることに課題がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「目」は相手に向ける、という基本的な所を繰り返し指導し、集中して聞く姿勢を身に付けさせたい。また、指導内容を合言葉にするなど、児童が親しみやすい方法で継続した指導を行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・聞き方「あいうえお」など合図の言葉をつかうことで意識しようとする児童が増えた。しかし、最後まで聞く姿勢は不十分であり、継続して指導する必要がある。そのために、日常的な取り組みとして、話を聞き終わってから内容のクイズを出すなどの工夫をして取り組ませる。</li> </ul>	<p>今後も、自分の文章や友達の文章を見直す際に、ポイントを具体的に示すこと、さらに、教師の例文を直す活動を取り入れるなど全員に確実に身に付けさせていく。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・最後まで聞く姿勢を意識する児童が増え、大事なことを落とさずに聞くことを意識できるようになってきた。内容を再度確認したり、児童同士で確認し合ったりする活動を通して、さらに力を付けさせたい。また、終わりまで聞くことについては、繰り返し指導を行い、身に付いた部分を励ましでフィードバックする必要がある。</li> </ul>
2	算数	<p>学加法、減法についてはおおむね理解が深まっているが、繰り上がりや繰り下がり計算では、定着の度合いに個人差がある。</p> <p>学文章問題では、問われている内容を正確に読み取ることが不十分であり、より定着を目指したい状況である。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・繰り上がり、繰り下がり計算を正確に行えるようにする必要がある。</li> <li>・問題の内容を把握し演算決定をすることに課題がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・朝学習の時間を活用し、繰り返し計算練習を行い、より正確に速く計算ができるように指導を続ける。</li> <li>・具体物や半具体物を示しながら、問題場面を理解させ、演算決定をさせる。また、式、答えを正確にノートに記述することも繰り返し指導することで、問題を読み取り、答えることまでの一連の流れを定着させる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・家庭学習や朝学習を通して、正確に計算できる児童が増えてきた。しかし、単元が終わると計算方法を忘れてしまう様子があり、繰り返し練習に取り組ませる必要がある。そのため、ドリルパークを毎週末に宿題として出していることを活用し、繰り上がり、繰り下がり計算問題練習をする。</li> <li>・問題を読み取り、正確に捉えるためにより工夫をして指導をする必要がある。そのため、デジタル教科書を活用して問題文の中から必要な情報に色を付ける、印を付けるなど全体で確認をしながら問題に取り組めるよう指導をする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・朝学習や、タブレット端末を使用した計算練習で、繰り上がり、繰り下がり計算は定着が見られた。また、他の単元においても、プリントとドリルパークを併用して計算問題に取り組むことで、さらに定着を図ることができた。</li> <li>・年間を通して、半具体物でも問題場面を理解することができるようになった。また、問題と式をノートに書かせることで、理解を深めることにつながった。しかし、新しい単元の問題や新出問題では、正しく読み取ることが難しい児童が多い。朝学習や、ドリルパークを活用してさまざまな問題に触れる機会を作り、経験を増やしていくことで、新しい問題も既習事項を生かして取り組めるようにしていく。</li> </ul>
3	国語	<p>調平均値を上回り、概ね良好であったが「書く」領域では下回っている。</p> <p>学語彙の定着に個人差がある。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全体として文章の組み立てに苦手意識がある。</li> <li>・単元で取り扱った言葉や漢字を活用しようとする児童が多い反面、漢字やひらがなを正しく書いたり、使えたりできない児童がいる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・書く単元を中心に定型文を教え、それに当てはめていく指導を行う。また、優れている部分・内容がある児童の作品を取り上げ、真似できるように周知する。</li> <li>・日記やノート指導を徹底し、毎回の授業で提出をうながす。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・定型文を教えて取り組んでいるが、自分で表現できる児童が一定数いることが分かった。今後は、継続して定型を教えるとともに、児童同士の交流に力を入れ、優れている表現や内容に気がつくようにする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・児童同士の交流を促すため、良い表現をしている児童の作品を取り上げたところ、模倣する児童が増えた。また、交流を活発にすることで、作品や表現の良さに気がつく児童も増えてきた。読書の習慣を絶やさないようにして、今後も語彙を増やしていく。</li> </ul>
	算数	<p>調全ての領域において目標値を上回り良好な結果だった。しかし、目標値に達していない児童も数名おり、理解の定着を要する。</p> <p>学九九の定着が不十分な児童がいる。大多数はできているので、底上げが必要である。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・前年度の内容の理解が不十分である児童がいる。具体的には九九の暗唱、時計の読み方、計算速度などである。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・児童同士のつながりを大切にし、九九の暗唱や教え合いの時間をとる。</li> <li>・放課後の時間を活用し、学習支援員や少人数算数の教員の力を借りて、気になる児童の補習を行い、学級全体の底上げをはかる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教え合いの時間を多く取り、学び合いの機会を増やしている。上手な教え方や、いいヒントの出し方をしている児童を取り上げ、学級全体の理解を深める。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教え合いを促したところ、教えた児童も学習の理解を深めることができていた。また、ドリルパークの正答率が低い項目を選んで家庭学習を配信したり、放課後支援を行ったりしたところ、学級全体の算数の単元テストの平均点が4ポイント向上した。</li> </ul>

4	国語	<p>学「はじめ」「中」「おわり」に自分の思いを当てはめて作文することはできるが、汎用的に書けない児童がいる。</p> <p>調新宿区学力調査では、「読むこと」に関しては、目標値を越えている。また、「説明文の内容を読み取る」についてもおおむねよくできている。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>発表することに自信をもてない児童が多いため、読みの深まりが不十分な面がある。</li> <li>言葉に着目した読みを身に付けることや表現する機会の確保をすることで、より情景や登場人物の心情に迫れる読みに繋げていく必要である。</li> <li>文章を書くことに関しては、自信をもって書けていない、詳しく書けない児童がいるため、考えを表現する機会を多く確保する必要がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>自分の考えを書く、発表する、聞く、考えを深めるという授業形態をとることで、多様な考えに触れさせる。</li> <li>ペア学習を多く取り入れ、まずは自分の考えを伝える活動を多く体験させていく。</li> <li>書き単元の前には、ポイントやプロットをもとに、文章を構成させることで分かりやすい文章が書けるようにさせる。また、読み合いをすることで表現の多様性に触れさせていく。</li> <li>朝の会の1分間スピーチ等を通して、発表する機会を確保する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ペア学習やグループ学習の中で、友達の意見から自分の考えを見付けられるようになり、傾聴の姿勢を取る児童が多くなった。</li> <li>書き単元では、ポイントやプロットをもとに、文章を構成させているが苦手意識が根強くある。そのため、ペア学習やグループ学習で文章のアドバイスを出し合ったり、読み合ったりする活動を多く設定している。</li> <li>1分間スピーチでは事前に用意ができるため、ノートに書いて発表をしている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ペア学習やグループ学習を進める中で傾聴の姿勢で学習を進める児童が多くなった。その中で自分の意見を表現することに慣れさせていった。</li> <li>読み単元を通して中心となる文や言葉をおさえながら授業を進めてきたが、書き単元になると一から考えてしまい、中心となる文や考えを捉えられず書けない児童が多かった。引き続き、プロットをもとに文章構成を簡潔化していき、児童にイメージをもたせるよう計画していく。</li> </ul>
	算数	<p>学「たし算・ひき算」の正答率が低かった点は、乗法の筆算等でも理解が不十分な児童が多い。</p> <p>調新宿区学力調査では、「測定」で目標値を大きく上回った。「たし算・ひき算」の正答率が低く、まだ、十分身に付いていない状況である。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>「たし算・ひき算」の正答率が低かった点は、乗法の筆算等でも正確に計算をすることが難しい児童がいる。</li> <li>漠然と問題を解くのではなく、考えの根拠となるものを明確にして、課題解決することに必要がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>基本の和算乗除の練習を、定期的に家庭学習として出していく。</li> <li>単元の初めに、3年生の関連単元の復習を意図的に取り入れることで、学習のつながりから、考えの根拠を見付けていくことに慣れさせていく。</li> <li>問われていることは何なのかを確認してから、学習に取り組ませていく。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ドリルパークを復習として、次の単元の学習後に出すことで、既習の習得を図っている。</li> <li>考えの根拠につながることは、どんな考えなのかを導入で確認し、本時の学習につなげている。</li> <li>自力解決の前に、問題で問われている内容を理解するのに時間を要する児童が多い。そのため、何を考えていくのかを全体で確認している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>学習の復習としてドリルパークで定期的に出していた。そのため、計算問題では定着が図れた。</li> <li>自力解決場面で考えの根拠となるものを明確にしてから解くことは難しいため、クラス全体で進めていった。しかし、問われている内容を把握できない児童が多い。引き続き、問われている内容理解をしっかりとってから自力解決をさせていく。</li> </ul>
5	国語	<p>調「読むこと」について、説明文の内容を正確に読み取ることがやや不十分である。</p> <p>学「書くこと」では、書こうとするものの中心を明確にして、文章を書くことに、苦手意識をもつ児童がやや多い。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>説明文の内容を、大まかに理解することはできるが、段落の内容を理解して、文章を読み取ることができるよう、段落を意識した読みの力を付ける必要がある。</li> <li>文章を書くことへの抵抗は少なくなってきたが、柱となる内容をどのように表現するかを理解し、活用していく力を育む必要がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>段落と段落のつながりを、図式化したり、短い要約文や小見出しを付けたりする学習を、国語だけに限らず、他教科においても意識して繰り返し行う。</li> <li>説明文の学習で文の構成を意識して学習させ、国語以外の教科で文章を書く際にも文章の構成を意識して取り組むことができるように指導していく。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>段落と段落のつながりを意識して読み取ることができるようになってきた。特に接続語を意識的に見ることで、段落同士がどのような関係でつながっているのかを考えながら読み取れる児童が増えた。社会の調べた内容を短く要約したり、発表の題名を小見出しのように付けたりするなど、取り組みは継続していく。</li> <li>構成メモを作らせることで、文章の構成を意識した文を書ける児童が増えてきた。短い文章でも、事例やまとめに分けて考えさせるなど、他教科での取り組みも継続していく。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>接続語だけでなく、文末表現や言葉と言葉の言い換えなどにも注目して文章を読み取ることができるようになってきた。表現の細部に注目することで、段落同士のつながりを理解することにつながっている。国語以外の教科でも、問われていることに対して正対して回答することができるよう児童も増えてきた。</li> <li>構成メモを作ってきたことで、文章全体の見直しをもって作文が書ける児童が増えてきた。論理的な文章を書くだけでなく、話し合いの場面でも論理的に説明する姿が見られるようになった。</li> </ul>
	算数	<p>学「数と計算」について、除法について全般的に理解が不十分な児童がいる。</p> <p>調「量と測定」について、円の中心やコンパスの使い方に関して、理解が深まっていない児童が多い。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>文章問題を解くための除法の立式を確実に理解させる必要がある。問題文から立式につなげる指導が必要である。</li> <li>コンパスや分度器、定規などの扱いが正確にできるように習慣付ける必要がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>検算をする習慣を付けさせ、正確に計算ができているか確認をしながら進めていく。除法の立式の意味を説明できるように、言葉での説明も重視する。</li> <li>筆算のときにもミニ定規を使ったり、ノートをまとめる際にも工夫して道具を扱ったりするようにする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>正確に計算できる児童が増えてきた。検算も継続するが、算数の開始5分で行うプリント学習をきちんと解説し、反復学習することで、計算ミスを中心に減らしていく。また、自身の立式の根拠を説明する力も身に付いているので、取り組みを継続して行う。</li> <li>道具を使う機会がなかったが、教師が実際にホワイトボードで定規を使い、児童に使い方を伝えることで、より改善を図るようになる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>計算プリントを反復して行うことで、計算ミスをする児童は減ってきた。しかし、大きな位になるとミスをしてしまったり、計算に時間がかかりすぎてしまったりして、なかなか次に進めない児童もいるので、個別の支援もしつつ取り組みを継続していく。</li> <li>他教科であっても定規を使う場面を設け、使い方になれるようにしてきたことで、定規を正しく使えない児童は減った。分度器やコンパスについても折に触れて指導をし、正しく使えるようにしていく。</li> </ul>

6	国語	<p>調「読むこと」の領域においては、正答率が目標値に対して+5ポイント程度達成している問題が多かった。</p> <p>調全体を通して、「思考・判断・表現」に関する問題の正答率が、目標値に対して+5ポイント程度達成していた。</p> <p>調「漢字の読み書き」に関する問題の正答率が、目標値に対して全体的に低かった。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「読むこと」の学習においては、物語文や説明文を読み、感じたことや分かったことをまとめることに苦手意識をもっている児童が多い。</li> <li>・「書くこと」の学習においては、感じたことや考えたことなどから書くことを選んだり、集めた材料を分類したり関係付けたりして、伝えたいことを明確にすることに苦手意識をもっている児童が多い。</li> <li>・全学年までの漢字が定着していない児童が多い。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「読むこと」の学習においては、単元の中でも大切な部分で振り返りを行い、感じたことや分かったこと、疑問に思ったことを書かせるようにする。そうすることで、物語文や説明文に対する自分自身の考えを蓄積でき、感じたことや分かったことをまとめる際の手立てとする。</li> <li>・「書くこと」の学習においては、取材の際の視点を明確にして授業を行う。また、隙間の時間を活用し、さまざまなテーマで200文字程度の作文を書かせ、基本的な型を指導する。</li> <li>・モジュールの時間に漢字ドリルの音読に取り組みせ、読みを完璧にさせる。また、児童の宿題の状況から、間違いやすい漢字や書けていない漢字をピックアップし、練習させる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「読むこと」の学習において、単元の中の大切な部分で振り返りを行うことにより、感じたことや分かったことをまとめる際に児童が参照しながら取り組むことができていた。児童の振り返りを教師がプリントにまとめ、配付することで、自分の考えを再構築する児童も見られた。</li> <li>・「書くこと」の学習においては、視点を明確にして取材をさせることで、文章に膨らみをもたせることのできる児童が増えてきた。また、隙間時間の200文字作文も継続して行い、書く力の基礎を育てていく。</li> <li>・モジュールの時間に漢字ドリルの音読に取り組みせることで、確実に新出漢字を読めるようになってきた。今後は、ドリルパークも効果的に用いて、一人一人の学びにあった漢字指導を行っていく。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「読むこと」の学習において、単元の中の大切な部分で振り返りを行うことにより、自己の学習を振り返ったり、見直しをもったりしながら取り組む姿勢が身に付いた。新宿区学力定着度調査のポイントには直結しなかったが、学習の様子からは少しずつ感じたことやまとめることへの苦手意識が減っていることが分かる。</li> <li>・「書くこと」の学習においては、視点を明確にして取材をさせることで、教師の手を借りず、自分自身で文章に膨らみをもたせることのできる児童が増えてきた。</li> <li>・モジュールの時間の漢字ドリルの音読やドリルパークによる一人一人の学びにあった漢字指導を行うことで、全体的な漢字の読み書きの能力向上につながった。</li> </ul>
	算数	<p>調「小数のかけ算・わり算」等の基礎的な計算の正答率は、目標値に対して+5ポイント程度達成することができた。</p> <p>調全体的に「思考・判断・表現」に関する問題の正答率が、目標値に達成していなかった。また、課題として挙げた分度器やコンパスの扱いに関しても課題がみられた。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学習した内容が定着しない児童が多い。</li> <li>・文章から読み解く問題を苦手としている児童が多い。特に、「単位量あたりの大きさ」、「割合」については、比べられる量やもとにする量を区別することが難しい児童が多い。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・算数の授業の初めの7、8分に復習タイムをとる。その際に概数や基準量を求める問題を出題し、理解の定着を図っていく。(通年)</li> <li>・文章題に取り組む際は、問題を解く際に必要な情報を全体で確認し、線分図等を活用しながら問題を解かせるように指導していく。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・算数の授業の初めの7、8分の復習タイムにより、理解の定着が見られてきた。今後も継続していく。</li> <li>・問題を解く際に必要な情報を全体で確認し、線分図等を活用しながら問題を解かせるようにすることで、問題の意図を理解したり、イメージをもったりできる児童が増えてきた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・算数の授業の初めの7、8分の復習タイムにより、小数や分数の四則計算、比を簡単にする、割合や百分率の理解の定着がみられた。</li> <li>・問題を解く際に必要な情報を全体で確認し、線分図等を活用しながら問題を解かせるように指導することで、自力で問題に向き合う姿勢が身に付いた。</li> </ul>
音楽	<p>低 大きな声で歌っている。音楽にのって体を動かしたり、表現したりすることに主体的である。リズム感がよく、お手本を聴いただけでリズムの手拍子などをすぐにまねできる児童が多い。</p> <p>中 真面目に音楽活動に取り組んでいる。鑑賞のワークシートなども聴き取ったことを細かく書いている児童が多い。</p> <p>高 ほとんどの児童が大きな声で声を響かせて歌えている。主体的に学習に取り組む児童が多い。リズム感のよい児童が多い。</p>	<p>低 大きな声で歌っているが、少数が叫んでしまう児童が多い。</p> <p>中 自分が感じ取ったことを発表することについて消極的な児童が多い。また、自分の意見にも自信がない様子である。</p> <p>高 歌唱の際に、大声で歌ってしまう児童が複数人いる。音楽の学習に対して自信がもてず、消極的な児童が数人いる。鑑賞の学習に対して苦手意識をもっている児童が多い。</p>	<p>低 歌声と地声の違いを体感させ、声を響かせて歌う指導を行う。</p> <p>中 色々な場面で自分の考えなどを発表する学習を増やし、児童の言葉に必ず価値づけを行うことで自信をもたせる。</p> <p>高 地声と歌声の違いを体感させ、少しずつ声を響かせて歌えるように指導する。合唱や合奏などの授業を通して、大勢で1つになって音楽をする楽しさや達成感を味合わせるなどして音楽に主体的に参加する児童を増やす。鑑賞で、聴くポイントを明確に示し、言葉のヒントなども毎時間与え、よい考えの児童がいたら価値づけを行う。</p>	<p>低 歌声と地声の違いを体感させ、声を響かせて歌う指導を行う。同じ音を反復する際、タンギングを意識して演奏させる。</p> <p>中 色々な場面で自分の考えなどを発表する学習を増やし、児童の言葉に必ず価値づけを行うことで自信をもたせる。自信をもって歌う活動を増やしていく</p> <p>高 地声と歌声の違いを体感させ、少しずつ声を響かせて歌えるように指導する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・合唱や合奏などの授業を通して、大勢で1つになって音楽をする楽しさや達成感を味合わせるなどして音楽に主体的に参加する児童を増やす。</li> <li>・落ち着いて授業を受けられるよう指導方法を工夫する。</li> <li>・簡単なものから復習していきスモールステップで進めていく</li> </ul>	<p>低 コロナのため制限は多くあったが、鑑賞や合奏の活動は、意欲をもって取り組むことができた。コロナが長引くことから、従来とは違う学習を展開しなければならない課題を感じる。木琴やキーボード、大太鼓など様々な楽器に触れて音楽が作れたことは、よかった。また、リトミック的な教育は、とても役立った。わらべうたの遊びやクラシックの鑑賞などもとても喜んでやっていた。しかし、鍵盤ハーモニカや合唱は、あまり指導できなかった。</p> <p>中 コロナのため制限は多くあったため、琴やカプスといったアンサンブルに力を入れて指導ができた。琴は、日本民謡「さくらさくら」だけでなく、創作活動にもグループごとに対話的に取り組むことができた。コロナの中で、音楽の喜びを味わえる活動をもっと研究する必要があると感じる。器楽合奏では「茶色の小瓶」や「オーラリー」など吹く楽器無しで取り組んだ。しかし、リコーダーや合唱は、あまり指導できなかった。</p>	

音楽					<p><b>高</b> 後期は、コロナの影響で制限が多く、工夫のある活動を行った。琴を用い、Jpopの「夏祭り」などを演奏したり、カップスで「千本桜」を演奏したりもした。どの活動も楽しそうに取り組んでいる姿が印象的であった。また、合奏では「情熱大陸」や「エルクンバンチェロ」、「アフリカンシンフォニー」などを吹く楽器なしで作る活動も行った。どの児童も達成感をもって取り組んでいる様子であった。しかし、リコーダーや歌の活動は、あまりできなかった。</p> <p><b>全体</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・コロナの制限がある中で、音楽の喜びを感じることでできる活動をさらに研究し、取り入れていく。今年は、みんなで集まって音楽朝会をすることは、難しく全クラスビデオなどで行った。この活動は継続していきたい。</li> <li>・タブレット端末を活用してリコーダーや鍵盤ハーモニカの指導を行い、ビデオで演奏した様子を課題として提出させ、指導を行っていく。</li> </ul>
図工	<p><b>低</b> 表現したいことをいきいきと表している。発言も積極的にできる児童が多い。一方で、絵や工作など特定の分野で表現に迷う児童が見られる。</p> <p><b>中</b> 一人一人がお互いの作品に興味をもって活動している。協働して作りたがる児童が多く見られる。</p> <p><b>高</b> 自分なりに考えたことや感じ取ったことを表現できる児童も多いが、特定の分野で表現に迷う児童も見られる。また、自分から発表できる児童が少ない。</p>	<p><b>低</b> 失敗を恐れている面がある。児童同士がお互いの作品に興味をもって取り組むことができる態度を育てる必要がある。</p> <p><b>中</b> 個人での制作に苦手意識のある児童が数名いる。また、他の児童の作品を鑑賞する際、作品の見方が浅い児童も多い。鑑賞時の感想が浅い児童が多い。見方が浅い児童や、文章に表すことが苦手な児童がいる。</p>	<p><b>低</b> 失敗しても平気だという安心感を与えられるよう材料を十分に用意しておく。</p> <p><b>中</b> 自由に発想を広げたり考えを深めたりできるようにし、失敗を恐れず取り組むことができるよう働きかける。タブレット端末を活用し、鑑賞活動の時間の充実を図る。</p> <p><b>高</b> 活動に入る前にワークシート等の言葉で考える活動を行う。また、タブレット端末を活用し、活動の経過を自身で振り返ったりできるようにする。</p>	<p><b>低</b> 苦手意識を持っている児童に対して個別に対応している。今後は材料を大切に扱い取り組む姿勢をもたせる。</p> <p><b>中</b> 個人で取り組む時間と友達の作品を見て取り組む時間を分けて活動している。</p> <p><b>高</b> 鑑賞の視点を提示し、タブレット端末でこだわった点を写真付きで提出する活動を行っている。</p>	<p><b>低</b> 苦手意識のある児童に個別に対応し、周りの児童と話す時間を十分に設けるようにしている。また、材料を大切に意識をもって取り組む児童が増えた。</p> <p><b>中</b> タブレット端末を用いて、自分の作品を紹介する活動を行い、他の児童の作品に興味をもって取り組むことができるようにしている。今後も継続して他の児童との関わりが深められるよううながしていく。</p> <p><b>高</b> 作品をつくる前に構想をよく練ってから取り組むことで、自分の課題を明確にできるようにした。題材によっては取り組みが難しい児童もいたので、自分で考えられる発問の工夫をしていく。</p>

調…新宿区学力定着度調査の結果から見える学習状況

学…授業での様子や提出物、作品、ワークテスト、デジタルドリル等から見える学習の状況

※分量は2ページ以上となってもよい。